

この地域の一九八二年度調査  
された奈良時代創建寺院で  
ある。調査地点は、寺域の  
東南外縁部と想定される。  
調査区面積は約四二〇㎡、  
検出遺構として奈良～平安  
時代の溝、土壇、井戸のほ  
か、古墳時代に属する土壇  
井戸などがある。

木簡が出土したのは、幅  
一〇m内外、深さ二mの北

福岡・高畑廃寺 たかばたけ

- 1 所在地 福岡市博多区板付六丁目
- 2 調査期間 一九八二年四月～六月
- 3 発掘機関 福岡市教育委員会
- 4 調査担当者 柳沢一男・杉山富雄
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

流する大溝SD〇一である。溝の埋土はおおまかに三層に区分され上からA・B・Cとした。出土した一二点の木簡はすべてBに含まれ、多量の瓦、埴、土師・須恵器（八七点の墨書土器がある）、円面硯のほか、削掛・鳥形・舟形・刀形・陽物形木製品や曲物、鎌柄などの木製品が伴出した。

8 木簡の釈文・内容

出土した二点は、〇一九型式一点、〇三二型式一点、〇三三型式二点、〇三九型式二点、〇六一型式一点、〇六五型式一点、〇八一型式五点である。そのうち、〇三九型式の一点には墨痕が認められず、〇一九型式の一点と〇八一型式の四点は判読しえない。

- (1) 「 $\angle$ 三 $\square\square$ 四日付荒權下米四斛  
之 $\begin{smallmatrix} \text{白} \\ \text{三} \\ \text{石} \end{smallmatrix}$ 」  
( $\begin{smallmatrix} \text{月} \\ \text{廿} \\ \text{力} \end{smallmatrix}$ )
- 「 $\angle$ 田中 $\square$ 直」  
241  $\times$  19  $\times$  4 033
- (2) • 「知佐 $\square$ 一石五 $\square$ 」  
〔升力〕  
182  $\times$  21  $\times$  3 032
- 「三月十日」  
〔 $\angle$ 〕
- (3) 「 $\angle$ 石 $\square\square$ 石 $\square\square$ 」  
〔田上力〕  
(137)  $\times$  28  $\times$  4 032
- (4)  $\square$ 零  $\square\square\square\square$   
(159)  $\times$  (12)  $\times$  4 039
- (5)  $\times$   $\square$ 人木人  
(136)  $\times$  19  $\times$  13 065
- (6) 「 $\square$ 大  $\square$ 大  $\square$ 大」  
061

# 9 関係文献

柳沢一男編『板付周辺遺跡調査報告書(9)』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第98集)(一九八二年)

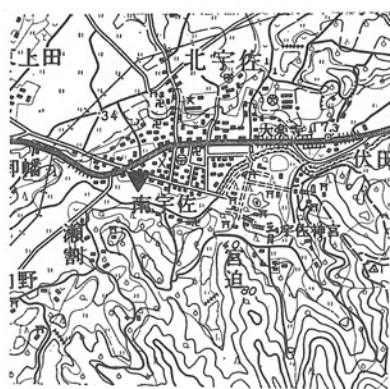
(柳沢一男)



高畑廃寺出土墨書土器

## 大分・藤田遺跡

- 1 所在地 宇佐市大字南宇佐字藤田
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)七月～十二月
- 3 発掘機関 宇佐市教育委員会
- 4 調査担当者 林 一也・小倉正五
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の時代 平安～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(宇佐)

本遺跡は、宇佐神宮より西へ四五〇m離れた谷底平野に立地する。遺跡の北側には勅使街道と呼ばれる道路が東西に延びており、その東の端は神宮境内に占地する天平十年(七三八)創建の弥勒寺西門跡に通じている。近年、この道路の南側において圃場整備事業に伴う発掘調査が実施され、宇佐神宮の主要参道に面した集落跡の一端を明らかにすることができた。